



セネガルの子どもたちに教育を！

バオバブの会 ニュースレター

2012年 No.3

(通巻24号)

8月7日発行

厳しい暑さが続いています、お元気でお過ごしでしょうか。

今回のニュースレターは、上半期のうち、4月以降の活動のご報告と、秋の活動のお知らせを中心にお届けいたします。

★★★ 活動報告 ★★★

♥ 神奈川県国際協力ネットワーク主催『第9回かながわく国際交流まつり』出展

4月29日(日・祝日)、真夏のような青空の下、横浜市民防災センター・沢渡中央公園で行われた『第9回かながわく国際交流まつり』(『よこはま水と緑の日』、『地元自治会』、『友・遊・まちづくりフォーラム』との共同開催による『第5回かながわ湊フェスタ』の中での開催)に出展しました。

バオバブの会は、展示による活動紹介と、マフェ(ピーナッツソースのビーフシチュー パン添え)、ヤッサ(レモン風味の鶏肉シチュー パン添え)、ベニエ、ケベサック(セネガルのお母さん達による手作り布バッグとポーチ)、アフリカ関連児童書他を販売しました。

特にセネガル料理が好評で、マフェやヤッサのレシピや、セネガル料理が食べられるレストランについて、たくさんの方からお問い合わせをいただきました。

ご来場いただいた皆様、ありがとうございました。

♥ ディウフ会長は、5月22日(火)、関東学院大学(室の木キャンパス)に於いて行われた、人間環境学部現代コミュニケーション学科の授業(担当:楠勝範教授)で、ゲストスピーカーを務めました。

ゲストスピーカーとしては、ディウフ会長の他、カナダ人と日系ポリビア人の2人が参加しました。それぞれが外国人として日本で暮らす中で経験した様々なことを語り、また、日本人が外国で暮らす場合に心がけたいことについて話しました。

ディウフ会長は 1. 自身が受けた差別の体験を通して、その国に来た目的を忘れないことが大切 2. 外国語でのコミュニケーションは間違っただけなので、間違いを恐れず、恥ずかしがらず、伝えたいこと(メッセージ)が伝わればいい、と考えて頑張る 3. その社会に溶け込もうという気持ちで、「どうしてこうなのだろう?」と考えて、自分もやってみて、判断していくという姿勢が必要、と話しました。また、質疑応答も行われ、ディウフ会長は、「セネガル人は皆、宗教を持っていますか?」「宗教は必要だと思いますか?」という質問に、「セネガルでは95%の人がイスラム教徒であり、自分もその一人。宗教というのは、良い人生を送る為、平和な社会を作る為のものだと思います。だから、なにか特定の宗教でなくても、自分の信条とか信念といったものを持っているなら、それがその人の宗教であり、それでいいと私は思っています」と答えました。

★★★ 秋の活動のお知らせ ★★★

♥ 『よこはま国際フェスタ2012』 出展

<http://yokohama-c-festa.org/>

日時：2012年10月20日（土）・21日（日）

会場：象の鼻パーク みなとみらい線 日本大通り駅より徒歩5分 JR・横浜市営地下鉄 関内駅より徒歩15分

主催：よこはま国際フェスタ2012プロジェクト

構成団体：(特活) 横浜 NGO 連絡協議会 公益財団法人横浜市国際交流協会 (YOKE)

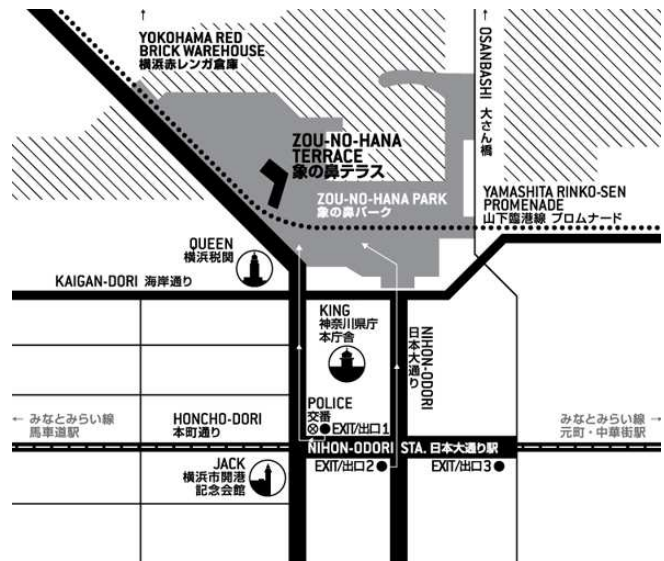
JICA 横浜 横浜市政策局国際政策室 (特活) 教育支援協会 日本赤十字社神奈川県支部

地図は「象の鼻テラス」さんのものを流用させていただきました。

国際協力・国際交流・在住外国人支援に取り組む諸団体の活動紹介と、団体相互の連携を図って開催される、神奈川県最大規模の国際フェスティバルですが、今年は、来年6月に TICAD5（第5回アフリカ開発会議）が横浜で開催されることをふまえ、テーマのひとつに『アフリカと友だちになる』をかかげ、アフリカゾーンの特設等が行われます。

バオバブの会は、世界の食ゾーンに出展し、マフェ（トマトとピーナツソースのビーフシチュー*）、ヤッサ（マリネしたチキンと玉葱のシチュー*）、ベニエ（ココナツとレーズン入りアフリカンドーナツ）、アターヤ（セネガル風ミントティー）の他、ケベサック（セネガルのお母さん達手作りのアフリカンプリント布バッグとポーチ）、アフリカ関連児童書等を販売する予定です。 *マフェとヤッサは、会場の都合により、今回も、ライスではなく、パン添えになる予定です。

ブース内では、展示による活動報告を行います。



♥ 『世界の教室』参加

日時：2012年11月11日（日）14:00~15:00を予定

会場：あーすぷらざ（神奈川県立地球市民かながわプラザ）<http://www.earthplaza.jp/>

主催：あーすぷらざ指定管理者：公益社団法人青年海外協力協会

詳細は追ってお知らせします。

♥ 『福引き2012』開催

詳細は追ってお知らせします。どうぞお楽しみに！

★★★ ことわざで開く、アフリカ文化の窓 ★★★

第4回 『裁判と裁判官』 “消えた〇〇億を探せ！”

エル・ハッジ・マサンバ ディウフ (訳・文責 水野)

ルワンダのことわざは、「お腹にいる者も仇を打つ！」と警告します。その時はまだ生まれていなかった子孫でさえ、家族に加えられた汚辱をそそぐことができる、ということです。

これは「裁判は、どんな昔に犯された犯罪でも見落とすことなく、時間がかかっても必ず裁く」と言い換えることができ、セネガルで現在行われている裁判の状況を良く表しています。2000年から2012年までの12年間に、人々を貧窮に陥らせる一方で、略奪者どもを太らせるのに熱中し、罰せられることもなかった体制が、最も弱小と思われていた反対派注1の手で、この3月に倒されたのです。それ以来、旧体制内の政治家や経済人達が、3、4日毎に次々と警察や司法当局に召喚される、または、警官や司法官の訪問を受けるようになりました。そのうちの何人かは数時間の尋問のあとで仮釈放されました。が、たとえ—それ故、とも言えますが注2—、1人につき15億5千万Fcfa注3の保釈金を払うと申し出ても、受け入れられず、そのまま留置されている人々もたくさんいます。そして、12年の間に複数のメディアから告発されたにもかかわらず、ほおっておかれた、お金に関するスキャンダルの数々を思うと、この状況は長く続くことでしょう。

そこで、自分の番を待っている人達は、曾祖母が私にしばしば言ったように、「寝られぬ夜を過ご」しているに違いありません。この言葉を理解していただく為に、小さなエピソードをご紹介します。それは、私が7歳から10歳の間のことでした。その頃、曾祖母は100歳を越え、5歳の子どものように、始終、気分を変えるようになっていました。飴やヨーグルトで私を喜ばせたと思うと、次の瞬間には、私が彼女の物を盗んだと言って、杖で叩こうとするのです。もちろん、多くの場合は、彼女自身でどこかにしまったことを忘れていただけなのでしたが、曾祖母は私を追いかけることができず、私が手の届くところに来るのを待ち伏せしていて、杖の一発をくらわせようとするのです。が、私は彼女の意図がわかるので、側に近づきません。すると、曾祖母は悔しそうに叫ぶのでした。「悪い子め！それじゃあ、お前には私を避ける訳があるんだ。自分がしたことを良くわかってるってことさ。それなら、『昼間、人に悪いことをした者は、あだ討ちが怖くて、寝られぬ夜を過ごす』になるからね！」

この思い出は、まもなくセネガルの裁判にかけられるはずの人々のことを考えさせます。もちろん、彼等の中でも不正を犯していない人々は、カメルーンのカメレオンが「俺には毛が無い。だから、かみそりなんか怖くない」と言うように、平静でいられることでしょう。アフリカで子ども時代を過ごしたことのない方は、この「かみそりが怖い」ということが理解できないかもしれません。私は日本の僧侶がどのようにして髪を剃るのか知りませんが、アフリカのかみそりの刃は、頭皮をすどくかき削り、しばしば血を流させます。拷問のようなもの、けれども、避けては通れない、必ず立ち向かわなければならないものなのです注4。

ところで、消えてしまった何十億ものお金の行方を探す中で、セネガルの裁判官達は、はたして、タンザニアのシャンバラ人の言うところの「歯の間の舌」のように、完全に中立な立場を保つことができるのでしょうか？ また、コンゴ（昔のザイール）のントンバ人が「雨は、義理の母親さえ濡らす」と言うように、誰に対しても手加減せずに、裁判を進めることができるのでしょうか？ というのも、この小さな国では、ほとんどすべての人々が、多かれ少なかれ、なんらかの親戚関係にあります。ですから、裁判官達は、間違いなく、彼等自身の親族や近い人々を裁くことになるのです。

7年の任期で選ばれた新大統領は、早速、大統領の任期を5年に縮める、という公約を果たしました。ですから、彼が、今度は、報道と司法の自由を尊重する、という公約も守るように祈りましょう。ただ、人間は権力の座に就いたとき、どう変わるわからない、ということが問題ですが。。。

注1 新大統領となったマッキー・サルは野党の中で一番新しいものだったので、勝利を予想されてはいませんでした。

注2 カメルーンのバミレケ人が「蟬は、鳴いて居場所を暴かれる」と言うように、身に覚えがあるからこそ、そのような高額を保釈金を申し出るのでしょうから、この申し出自体が自らの罪を暴くことになるのです。

注3 この金額は日本円で3億円以上になります。

注4 かみそりに耐えることは、立派な男であることの証となります。

★★★ サルム・ジャネ中学校からの感謝の手紙 (要旨) ★★★

本校の全生徒、全教員、また、地域のすべての人々から、常に人々の成長と社会の発展に貢献しようとされているバオバブの会の皆様に、心からの感謝の言葉を申し上げます。

バオバブの会の皆様は、既に長期にわたり、私達の地域の教育活動に、多大な物質的、経済的援助をしてくださっています。本当にありがとうございます。バオバブの会より本校の運営委員会にいただいた金額は、6年間で2,000,000Fcf (約400,000円)をこえています。私達は、いただいたお金で、生徒達に学用品を配布し、体操マットを購入し、体育その他の授業設備を充実させ、電気設備を導入することができました。特に、800,000Fcf (約160,000円)を使った電気設備のおかげで、生徒達は、夜間、授業の復習をすることができるようになりました。さらに、映画やドキュメンタリーの映写を取り入れることにより、授業は、理論ばかりでなく、より具体的で楽しいものとなりました。また、英語とスペイン語の辞書を購入し、外国語の授業を充実させることができました。さらに、本年度は、75個のベンチ付き長机を贈っていただきました。お陰様で、今まで1つのベンチ付き長机を4人で使っていたものを、2人でゆったりと使うことができるようになり、生徒達は大変に喜び、一層、勉学に励んでおります。来年度は中古のコンピューターをいくつか購入しようと考えております。中古なら私達にも手の届く金額で購入することができるからです。これによって、私達の子ども達にも、都会の子ども達のように、情報機器の手ほどきをすることが可能になります。

末筆となりましたが、バオバブの会に関わるすべての皆様のご健勝と、日本が東北大震災と福島原子力発電所の事故から一日も早く復興を果たしますよう、お祈り申し上げます。

また、いつの日か、バオバブの会の皆様に、本校と本校の学区内の村々にお迎えすることができますよう、心より願っております。

サルムジャネ中学校校長 シダット・ファール

バ オ バ ブ の 会

〒240-0052 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西谷町993-35

TEL&FAX 045-373-0059

E-mail : hajmass@hotmail.com

代表 エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

寄付振込先:

三菱東京UFJ銀行 八重洲通り支店普通口座

no.1523673 ゆうちょ銀行振替口座 00200=1 45215